

〔土佐日記〕夜るになして京には入らんとおもへば、いそぎしもせぬほどに月いでぬ、二月承平五年
 かつら河月のあかきにぞわたる、ひとく、のいはく、この川あすか、はにあらねば、ふち瀬さら
 にかはらざりけりといひて、或人のよめるうた、

久かたのつきにおひたるかつら川そこなるかげもかはらざりけり

〔玉海〕文治五年十一月十五日辛未、早旦、姫君參詣大原野社、爲祈入内事也、密々事也、○中日日出之程
 出京、申刻歸宅、路之間無殊事、桂河頗雖水出、不及妨渡云々、

〔太平記十四〕將軍御進發大渡山崎等合戰事

江田兵部大輔行義ヲ大將トシテ、三千餘騎ヲ丹波路へ差向ラル、此勢正月三○建武八年八日ノ曉、桂河
 ヲ打渡テ、朝霞ノ紛レニ大江山へ推寄セ、○下

〔西北紀行〕元祿二年、我○具原益軒が年す、でに下壽に及べり、かねてより丹後若狹近江に遊觀の志あ
 り、閏正月廿五日、餘寒猶はげしけれど、つとめて京都東洞院の旅館を出て、○中桂川舟にて渡る、

此河水いといさぎよし

〔夫木和歌抄二十六〕○かつらの渡

もち月のこま引たて、ひやしけるこ、やかつらの渡なるらん

安法法師

宇治渡

〔古事記中應神〕於是大山守命者、違天皇之命、猶欲獲天下、有殺其弟皇子○菟道稚郎子之情、竊設兵將攻爾大

雀命、聞其兄備兵、即遣使者、令告宇遲能、和紀郎子、故聞驚、以兵伏河邊、○中彼廂此廂、一時共興、矢刺

而流、故到訶和羅之前、而沈入、○中爾掛出其骨、○大山之時、弟王歌曰、知波夜、夜ハビ登、宇遲能和多理、○中

和多理是邇、多氏流阿豆、佐由美、麻由美、伊岐良牟、登許々、呂波母、閉杼、伊斗良牟、登許々、呂母母、閉杼、

母登幣波、岐美、袁淤母比傳、須惠幣波、伊毛、袁淤母比傳、伊良那、那久、曾許爾淤母比傳、加那志、那久、許

許爾淤母比傳、伊岐良受、曾久流、阿豆、佐由美、麻由美、